



令和4年2月1日発行

No.9



## ごあいさつ

県母子部会長 野呂 江身子

新年を迎え皆さまいかがお過ごしでしょうか。昨年は新型コロナウイルスとの戦いが続くなが、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催に反対意見もありましたが、わが子と同じ世代の若きアスリートの活躍とその笑顔に感動し、自分と同じ世代の最年長金メダリストに勇気とパワーをもらいました。

一方でコロナの感染者は拡大し続けましたが、ワクチン接種も進み、ようやく落ち着き始めたところで新たな変異株が登場しました。制限が緩和され、感染対策をとりながら少しずつ母子会の事業を開催し、子どもたちの笑顔が再び見られた矢先でした。いつまでこのような生活が続くのだろう。誰もがそう思っているのではないのでしょうか。人生100年時代の今、成人するまでの20年は人生の5分の1にすぎませんが、そのうちの2年は大変貴重な時間です。

入学式、卒業式、修学旅行、文化祭、各種競技会など、コロナで沢山のものが奪われました。この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻ることをお祈りしごあいさつといたします。

### 夢を応援基金

### 「ひとり親家庭支援奨学金制度」



全母子協とローソングループが力をあわせ、ひとり親家庭の生徒さんを応援する給付型奨学金です。

- ◇奨学金額 月額3万円（返還不要、他の奨学金と併用可）
- ◇対象者 中学3年生、高等学校等1年～3年生
- ◇募集人数 全国400名（申請書、作文・面接等の選考により決定）

2021年度 栃木県では、5名の奨学生が給付を受けています。

2022年度は、2月下旬頃 募集内容が発表されます。

※詳細については、全国母子寡婦福祉団体協議会のホームページで確認してください。

## 頑張ってます！

各市町母子会の活動状況や頑張っているお母さん、子どもたちを紹介します。

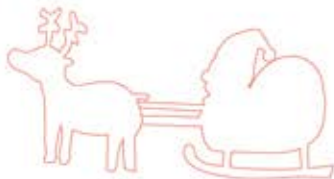
### \* 鹿沼市 \*

♥ ワイヤークラフトとても面白かったです。

ワイヤーで様々な形を造形することや、他にも写真立てなどの、ちょっとした小物が出来てとても良かったです。ワイヤーを折り曲げたり、角度をつける時には、少しコツが必要で、不格好な形になってしまいましたが少しでも上手くできるととても達成感がありました。

また作る機会があれば、また取り組んでみたいと思っています。

(島村 隼迅)



♥ クリスマスのリース作りで難しかったところは、ワイヤーの枠にリボンを通すところです。通しているとねじれてきてしまうので、何度もやり直して大変でした。楽しかったところは飾りつけです。かざりの位置を自分で決めて、接着剤でつけました。かざりを全部使わないで、シンプルなリースにしました。

少し手伝ってもらったけど楽しかったです。

ビンゴゲームはリーチが何個も出来て面白かったです。友達と隣の席に座って見せ合いっこしながらやっていたので盛り上がり楽しかったです。

他にも友達と写真をとったり、お菓子を選んだりしてとても楽しくすごせました。今度こういう機会があったらまた参加したいです。

(りのあ)



### \* 下野市 \*

♥ 下野市ひとり親家庭福祉会は、若年と寡婦を分けずに母子会として活動しています。新型コロナ禍で自粛していた、会員交流会を感染防止対策をして令和3年7月11日(日)に地元「ゆうがおパーク」にて行いました。久しぶりに会った会員達は近況報告、新型コロナワクチン接種のこと等、ひとしきり話をした後にはパーベキュー、食材や備品類は会場を用意してもらいました。自分達は焼いて食べるだけです。牛肉、豚肉、ピーマン玉ねぎ、カボチャなど次から次へと焼けた物を食べる笑顔は最高、焼きそばを焼く頃には「もうお腹がいっぱいでたべられないよ」と言う人もいました。

今回は会員のお孫さんが参加してくれました。一生懸命育てた娘さんの子供です。魚釣りゲームや砂遊びをしておばあちゃんと遊ぶ姿に喜びを感じました。

なかなか出て来られない人には、連絡を密にして「皆が参加したくなる様な行事を企画したいね」と言って会員交流会は終了しました。

P.S. 手ぶらでパーベキュー最高でした。

(田口 茂子)

### \* 足利市 \*

♥ 12月12日(日)、今年のクリスマス会もコロナ禍での開催となり、感染対策を講じながら行いました。

従来のクリスマス会は、ゲームやビンゴ会、軽食をとりながら交流を深めてもらう会ですが、感染防止の観点から昨年同様ケーキと軽食を渡すだけの形に変えて行いました。何を渡したら喜ぶのか検討した結果、今年はクリスマス仕様のケーキと、マクドナルドのハッピーセットを用意しました。密を避け効率よく渡すための事前準備に苦慮しながらも無事に終わることが出来ました。

「ありがとう」と笑顔を見せる子どもたち。きっと会場で遊びたかったでしょう。この一年間、自粛生活で親子共々苦労が絶えなかったことと思います。今回のクリスマス会が、子どもたちの中に良い思い出として残ってほしいと願っています。

(中里 紀子)

## \* 壬生町 \*

♥ 壬生町ひまわり会では、12月5日の日曜日ひとり親家庭を主な対象とした親子交流事業として【クリスマスフラワーアレンジメントワークショップ】を開催しました。

ワクチンが普及されてきたとは言え、まだまだ安心して活動が出来ないコロナ禍の中、検温や手指消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保などの感染防止に細心の注意を払いながらの開催でした。

そのような中、年長児親子の参加もありました。小さな体に可愛らしいエプロンをして、あどけない手つきではあったものの、ほぼほぼお子さんが作ったとのこと。アレンジメントなど初めてのことでしたが、大人顔負けの作品に、会員の皆様からも大絶賛。照れくさそうではありましたが、どこか誇らしげな表情に、何とも言えない温かさを感じました。

参加された会員の皆様からも「楽しかった」「久しぶりに会えて良かった」等々、明るいお声を頂きました。

そのようなお声を聞くと尚更一日も早くコロナが収束し、以前のような笑い声の響く活動が再開出来ることを願わずにはいられませんでした。  
(石川 由美)



## \* 栃木市 \*

♥ 3月21日（日）に、加入促進事業として、ハーバリウム教室を行いました。ハーバリウムとは、ドライフラワーをガラスの小瓶に入れ、保存用の専用オイルを注いで作るものです。

当日はとちぎ花センターより講師の先生をお招きして、作成方法を教えて頂きながら作品作りを行いました。

まず、自分が作品に使用するドライフラワーを選ぶのですが、種類の多さにどの子も驚いていました。花の他にも木の実や木の枝、葉などもあり、色も豊富で、各自好きな材料を選んで出来上がった作品はどれも素晴らしいものばかりでした。子供達からは「楽しかった!」「またやってみたい!」という感想が寄せられました。

コロナ禍の中、開催する事さえ危ぶまれた行事でしたが、十分な感染対策の下、久しぶりに子供達の笑顔を見る事が出来て、本当に良かったと思います。

今後は、草木染めやリース作りなども企画してまた皆で楽しもうと思います。

(金子 有子)



編

集

後

記

新型コロナウイルスがおさまりつつあり、今年はインフルエンザに注意とのこと。

引き続き手指消毒やマスク等の感染予防を徹底しましょう。

そして、来年度こそ会員の皆様との交流が出来、その活動を「ふちとまと」で報告できるように願っております。

(小林 加奈江)



## ひとり親家庭サポーターのつどい

R 3・11・14(日)

### 「危険から子どもを守るためには」

令和3年11月14日(日)パーティ・ホールに於いて、ひとり親家庭サポーターのつどい「危険から子どもを守るためには」と題し開催されました。講話には栃木県警察本部、人身安全対策第二係、警部補 墨田満氏をお迎えしました。講話では登校時の声かけ防犯ブザーの重要性、知らない人にはついていかない、危険が迫った時には大人を見つけて、助けを求めるなど、地域ぐるみで子どもを見守ることの大切さを指導して頂きました。

また、交通安全教室のDVDを鑑賞し、道路の危険箇所の確認をしたり、自転車に乗る際のルールやマナーの指導を受けました。

それに加え、SNSと子どもの安全性の観点から、スマートフォン使用時のマナーや、情報モラルを知ることの重要性を教えて頂きました。

子どもに正しいSNSの使い方を教えるためには、まず大人が適切なSNSの利用を心がける必要があると思いました。

今回学んだこれらのことを活かし、子ども達の明るい未来を作っていきたいと強く感じました。

(那珂川町 森島 里絵)

栃木県警察本部、人身安全対策第二係、警部補 墨田満氏の講話を拝聴致しました。保護者が取り組める子供を守る方法として、地域による見守りだけでなく防犯教育が必要だということでした。

- 1 「いか」知らない人には何を言われてもついて行かない。
- 2 「の」らない。  
ドライバーに話しかけられたら、すぐに車の進行方向の反対に逃げる。
- 3 「お」大きな声を出す。  
危ないと思ったら大きな声や、防犯ブザーで助けを呼ぶ。
- 4 「す」すぐ逃げる。
- 5 「し」知らせる。



大人だったら当然の事でも子供がそんな境遇にあつたら、実践できるでしょうか？日頃から子供に言い聞かせる事ではないでしょうか。

犯罪には、ネット犯罪もあり、スマートフォンやインターネットの普及によって、私達の生活も身近になりました。最近では子供も自分のスマートフォンを持ちメールや調べ物、ゲームなど利用する事も多くなりました。

一方で有害情報サイトなどにアクセスし犯罪やトラブルに巻き込まれるケースもあります。そんなネットの危険から子供を守るには

1. 子供のスマートフォン等の利用状況を把握する。
2. 不適切な情報や危険な出会い系を防ぐためフィルタリングを利用する。
3. 親子で家庭のルールを作る。

子供達の周りには、多くの危険が潜んでいます。子供達を事件や事故から守るためには、地域の大人たちによる保護に加え、子供達自身が、自分の身を自分自身で守る方法を知り、身に付けていく事が必要だと思います。

今回参加して、子育て真最中の母子の参加が少なく、寡婦の方が殆どで残念でしたが、地域の母子に伝えていきたいと思います。

(那須塩原市 織田 敏枝)

